

『術間清掃手順』

平成20年5月20作成
平成22年3月31日改正
令和4年12月28日改正

連絡方法：看護師リーダーが清掃開始前に助手リーダーに術間・術後のいずれであるか、複数のオペルームの清掃に対する優先順位について連絡する。

清掃手順

1 手術後の部屋の掃除をする

(1) 物品の清拭

ア 無影灯・手術台・手台・患者に装着したモニター類のコード・麻酔器・麻酔三段ワゴン・シリンジポンプ・輸液ポンプ・下肢用安全带・使用した ME 機器、使用した体位固定器具、その他汚染のあるものについては有機物を除去したうえで次亜塩素酸清拭剤（ルビスタ®）を用いて清拭する。

イ キックバケツにはビニールがかかっているなので、肉眼で見える汚染が無ければ、ビニールを交換するのみとする。

※ 無影灯やPC画面等において拭き跡が残る場合は二度拭きして拭き跡を消すようにする。

(2) 物品の破棄

ア 麻酔器関連のディスポ製品（使用済みの麻酔回路・人工鼻・酸素バッグ・酸素マスク・スタイレット・吸引チューブ・吸引バッグ・サクションチューブ）は破棄する。

イ ゴミは分別して所定の場所に破棄する。

ウ 手術用オイフ等はできるだけ小さくまとめて破棄する。

(3) 物品の片付け

ア リネン類については、使用したものは分別してランドリーに入れる。

※ 血液汚染のあるものは赤袋（感染症扱い）に片付ける。

イ ME 機器は、清拭後に所定の場所に片付ける。

ウ 体位固定器具は、清拭後に所定の場所に片付ける。

使用した体位固定用枕は、枕を包んでいる保護シートを剥がし新しいシートに包み直す。

エ 使用した麻酔器関連のリユース器材（喉頭鏡ブレード・エアウェイ・吸引コネクタ）は回収ののち洗浄する。

(4) 床の汚染除去

ア 床等に散乱している骨くず等の体組織、糸などは廃棄し、眼に見える汚れ（血液・体液など）は、除菌洗浄剤で清拭する。

2 掃除後の部屋の準備を行う

(1) 麻酔物品の補充

ア 全身麻酔手術後の場合

- ・ 麻酔回路・人工鼻・酸素バッグ・吸引チューブを補充する（麻酔器への取り付けは看護師及び臨床工学技士が行う）。
- ・ 吸引バッグ・吸引コネクタは新しいものを接続する。
- ・ 喉頭鏡ブレード・エアウェイ・スタイレット・サクシオンチューブ・バイトブロック・経鼻用酸素チューブ・酸素マスクを補充する。

イ 腰椎麻酔・局所麻酔手術後の場合

- ・ アのうち使用したものについては補充を行う。

(2) 物品の整備

- ア 部屋に配置すべき物品を所定の場所に配置する。
- イ 手術台にシーツを敷き、バスタオル・上肢用安全帯・フリーシーツ®を補充する。
- ウ 心電図モニターコードに電極を装着する。
- エ 以下のゴミ箱類に新しいビニール袋をかける。
キックバケツ・排液用バケツ（二重にかける）、輸液ボトル廃棄用、計量はかり（汚染防止用）

『術後清掃について』

平成 21 年 2 月 10 追加作成

令和 5 年 1 月 5 日改正

清掃手順

1 手術後の部屋の掃除をする

(1) 物品の清拭

ア 無影灯・手術台・手台・患者に装着したモニター類のコード・麻酔器・麻酔三段ワゴン・シリンジポンプ・輸液ポンプ・下肢用安全带・使用したME機器、使用した体位固定器具、記録台・処置台、計量はかり、キックバケツ、その他汚染のあるものについては有機物を除去したうえで次亜塩素酸清拭剤（ルビスタ®）を用いて清拭する。

※ 無影灯やPC画面等において拭き跡が残る場合は二度拭きして拭き跡を消すようにする。

イ 清拭の順番については上にあるものから下に向かって行う。

(2) 物品の破棄

ア 麻酔器関連のディスポ製品（使用済みの麻酔回路・人工鼻・酸素バッグ・酸素マスク・スタイレット・吸引チューブ・吸引バッグ・サクションチューブ）は破棄する。

イ ゴミは分別して所定の場所に破棄する。

ウ 手術用オリーブ等はできるだけ小さくまとめて破棄する。

(3) 物品の片付け

ア リネン類については、使用したものは分別してランドリーに入れる。

※ 血液汚染のあるものは赤袋（感染症扱い）に片付ける。

イ ME機器は、清拭後に所定の場所に片付ける。

廃液処理装置（ブルークロス®）については、排液を廃棄し庫内の洗浄を行う。

ウ 体位固定器具は、清拭後に所定の場所に片付ける。

使用した体位固定用枕は、枕を包んでいる保護シートを剥がし新しいシートに包み直す。

エ 使用した麻酔器関連のリユース器材（喉頭鏡ブレード・エアウェイ・吸引コネクタ）は回収ののち洗浄する。

(4) 床の汚染除去

ア 床等に散乱している骨くず等の体組織、糸などは廃棄し、眼に見える汚れ（血液・体液など）は、除菌洗浄剤で清拭する。

イ 床拭きを行う。

- ・ 専用のモップと水を用いて行う。
- ・ オペルールの奥から扉に向かって清拭する。
- ・ 手術台やME機器等は移動させた上で床全面を清拭する。
移動させた機器類は清拭後元の場所に戻しておく。

2 掃除後の部屋の準備を行う

(1) 麻酔物品の補充

ア 全身麻酔手術後の場合

- ・ 麻酔回路・人工鼻・酸素バッグ・吸引チューブを補充する（麻酔器への取り付けは看護師及び臨床工学技士が行う）。
- ・ 吸引バッグ・吸引コネクタは新しいものを接続する。
- ・ 喉頭鏡ブレード・エアウェイ・スタイレット・サクシオンチューブ・バイトブロックを補充する。

イ 腰椎麻酔・局所麻酔手術後の場合

- ・ アの補充は必要ないが、マスク換気した場合は、酸素マスクの補充と必要時に麻酔回路の補充を行う。

(2) 物品の整備

ア 部屋に配置すべき物品を所定の場所に配置する。

イ 手術台にシーツを敷き、バスタオル・上肢用安全帯・フリーシーツ®を補充する。

ウ 心電図モニターコードに電極を装着する。

エ 以下のゴミ箱類に新しいビニール袋をかける。

キックバケツ・排液用バケツ（二重にかける）、輸液ボトル廃棄用、計量はかり（汚染防止用）